

日本独文学会
秋季研究発表会

2013年9月28日(土)・9月29日(日)

第1日 午前9時50分より

第2日 午前10時00分より

会場 北海道大学 高等教育推進機構 (旧教養部)

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目

Tel.: 011-727-9300 (学会当日のみ)

E-Mail: tagung2013hokudai@jgg.jp

参加費：2000円 (学生会員, 常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603

Tel/Fax: 03-5950-1147

E-Mail(メールフォーム): <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第1日 9月28日(土)

開会の挨拶(9:50~9:55) A会場(N2講義室)

北海道支部長 神 久聡
会 長 渡辺 学

シンポジウム I (10:00~13:00) A会場(N2講義室)

68年世代を再考する

— シュトラウス, ハントケ, イェリネク, ファスビンダー

Eine Revision der 68er — Strauß, Handke, Jelinek, Fassbinder

司会: 渋谷 哲也

1. 「頭脳の映画」と「意識の演劇」— ボートー・シュトラウスの戯曲『ヒポコンデリー症の奴ら』について 大塚 直
2. ペーター・ハントケの「物語の言葉」 宗宮 朋子
3. 記憶の〈重なり〉の可視化 — *Das Über Lager* に示されるエルフリーデ・イェリネクの詩学 福岡 麻子
4. テクスト・歴史・身体の引用 — ライナー・ヴェルナー・ファスビンダーのオリジナリティ 渋谷 哲也

シンポジウム II (10:00~13:00) B会場(N1講義室)

語彙意味論と構文関連情報の相互作用

Wie interagiert die lexikalische Semantik

mit konstruktionsrelevanten Informationen?

司会: 森 芳樹

1. モダール副詞・不変化詞から見た話者のコミットメント 森 芳樹
2. Adverbiale in Medialkonstruktionen Ingrid Kaufmann
3. ドイツ語反使役動詞の形態的実現と語彙的アスペクトの解釈 青木 葉子
4. 動詞の意味と項実現 高橋 亮介

口頭発表：文学 1 (10:00～11:55) C会場 (E310 講義室)

司会：吉田 徹也, 川合 増太郎

1. 書かない主人公 — フランツ・カフカの三長編小説における権力関係と「書くこと」 下藺 りさ
2. ゲシュタルト論争 — ベンヤミンのグンドルフ批判 宇和川 雄
3. 小説理論における悲嘆の連鎖
— そのテキスト解釈と文化的背景についての一考察 北原 寛子

口頭発表：文学 2 (10:00～11:55) D会場 (E301 講義室)

司会：田中 剛, 高橋 修

1. Der historische Roman als postkoloniale Kritik? Die Demontage von Pazifik-Bildern in Lukas Hartmanns „Bis ans Ende der Meere“ (2009) Thomas Schwarz
2. 機械仕掛けのイヴ — E.T.A. ホフマンの『砂男』におけるアダムとイヴのモチーフ 土屋 京子
3. 芸術創造において相容れぬ〈女らしさ〉と〈女であること〉
— ドロステ＝ヒュルスホフの未完の悲劇『ベルタ,あるいはアルプス』
における両性具有のイメージについて 麻生 陽子

口頭発表：ドイツ語教育 (10:00～11:55) E会場 (E201 講義室)

司会：Matthias Grünwald, 塩谷 幸子

1. PASCH 校生による「ドイツ語新聞」の制作とその指導
— A1, A2 レベルでのドイツ語表現の可能性 山崎 雄介 柴田 育子
2. Sprachlernspiele im Unterricht: Wie stehen die Lernenden dazu? Katrin Niewalda
3. Mehr Lesemotivation durch Hörverstehen Gabriele Christ-Kagoshima

ブース発表 (11:30～13:00) F会場 (E312 講義室)

環境教育における文学の射程

松岡 幸司

ポスター発表 (13:00~14:30) G 会場 (E311 講義室)
(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

ドイツにおける Sprichwörter の受容に関する考察：歴史的変遷と現状

梶本 万貴

ドイツ語語彙習得を目的としたスマートフォンアプリケーションの開発

橋本 雄太

寺澤 大奈

麻生 陽子

招待講演 I (13:00~14:00) C 会場 (E310 講義室)

Prof. Dr. Tilman Borsche (Universität Hildesheim):

Literarische Formen des philosophischen Denkens — Traktat, Dialog, Narration

招待講演 II (13:00~14:30) D 会場 (E301 講義室)

1. Prof. Dr. Elisabeth Leiss (LMU München):

Modalität und Gedächtnis

2. Prof. Dr. Werner Abraham (Universität Wien / LMU München):

(Un)Gewissheit: epistemisches Differential

シンポジウム III (14:30~17:30) A 会場 (N2 講義室)

フロイトの彼岸 — 精神分析, 文学, 思想

Jenseits von Freud — Psychoanalyse, Literatur und Philosophie

司会：土屋 勝彦

- | | |
|--|-------|
| 1. 狂気の来る道 — ゲーテとフロイト | 鶴田 涼子 |
| 2. 世界の〈破れ目〉と回帰する身体 — フロイトとカフカ | 山尾 涼 |
| 3. カフカのテキストにおける虚構の死
— フロイトの「死の欲動」との関連から | 須藤 勲 |
| 4. 集合的意識のアレゴリー — フロイトとベンヤミン | 山本 順子 |
| 5. Freud の精神分析 — フランスにおける受容と変容 | 鈴木 國文 |

シンポジウム IV (14:30~17:30) B 会場 (N1 講義室)

ヴァーグナーの舞台作品におけるドラマ性

Die Dramatizität in den Bühnenwerken Richard Wagners

司会：稲田 隆之

1. 「異界」の音楽表現からみるヴァーグナーのドラマ性 山本 まり子
2. ヴァーグナーと「グランド・オペラ」—《リエンツィ》を中心に 松原 良輔
3. ヴァーグナーの総譜におけるオーケストラと演出指示との関係 岡田 安樹浩
4. 《トリスタンとイゾルデ》における言葉と音楽の関係 稲田 隆之
5. 《パルジファル》における新たな舞台表現の模索 — 言語の形態を中心に 北川 千香子

シンポジウム V (14:30~17:30) C 会場 (E310 講義室)

Sprache an medial-technischen Schwellen — Die Sprache ändert sich, aber wie?

司会：Manshu Ide

1. Eine Entwicklungsstufe im Ausbau des deutschen Wortbildungssystems Miho Isobe
2. Binnenstruktur der Nominalphrase im frühneuhochdeutschen Gesetzestext
Manshu Ide
3. Die Mikro- und Makrostruktur der ersten deutschen illustrierten Zeitung
Hirofumi Hosokawa
4. Textwandel im digitalen Zeitalter Heike Ortner

口頭発表：語学 (15:10~16:25) D 会場 (E301 講義室)

司会：清水 誠, 橋本 聡

1. Gesprächsanalytische Höflichkeitsforschung
— Anwendung von GAT2 in der Höflichkeitsforschung Tatsuhiko Yoshida
2. 法助動詞の時間解釈に関する独英対照
— müssen, können, must, may の認識的用法を中心に 岡野 伸哉

口頭発表：文学3（14:30～17:05） E会場（E201 講義室）

司会：鈴木 将史，北原 寛子

1. 人間蒐集家の系譜 — テオプラストスとエリアス・カネッティの『カラクテーレ』について 須藤 温子
2. H. H. ヤーン『リチャード三世の戴冠』における認識のつまずきと痛み 北村 優太
3. クリストフ・ランスマイアー『モルブス・キタハラ』における語りの可能性 徳永 恭子
4. セルマ・ラーゲルレーヴ『イエスタ・ベルリングのサガ』とドイツ民族主義運動 — グスタフ・フレンセン『イエレン・ウール』との比較 中丸 禎子

ブース発表（16:00～17:30） F会場（E312 講義室）

ドイツ語心態詞を含む発話における韻律的特徴について 生駒 美喜
牛山 さおり

懇 親 会（18:30～20:30）

会場：京王プラザホテル

会費：7000 円（学生・常勤職のない会員は 5000 円）

第2日 9月29日(日)

シンポジウム VI (10:00~13:00) A会場 (N2 講義室)

世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の諸相
— その多様性の根底にあるものは何か

**Aspekte der Kunstzeitschriften in Deutschland und Österreich
um die Jahrhundertwende. Worauf gründet sich ihre Mannigfaltigkeit?**

司会：西川 智之

1. 『Dekorative Kunst』誌とユーゲントシュティール
— マイアー＝グレーフェとムテジウスを中心に 池田 祐子
2. „Deutsche Kunst und Dekoration“誌に現われたウィーン工房の装飾性と
日本におけるその受容について 高橋 麻帆
3. アルベルト・ランゲンと『ジンプリツィシムス』 千田 まや
4. 雑誌『ユーゲント』の諸相 — その芸術性と商業性 古田 香織
5. international / national という観点から見た『パン』と『ヴェル・サクルム』
西川 智之

シンポジウム VII (10:00~13:00) B会場 (N1 講義室)

グリム童話とドイツ伝承文学における父親像と母親像

Vater- und Mutterbild in Grimms Märchen und deutscher Überlieferungsliteratur

司会：野口 芳子

1. ハーメルンの笛吹き男伝説の場合 溝井 裕一
2. 『灰かぶり・千枚皮』の場合 — 東西の民間説話を巡って 竹原 威滋
3. 『少年の魔法の角笛』に基づく音楽作品の場合 山本 まり子
4. ドイツ語圏の現代伝説の場合 金城ハウプトマン朱美
5. グリム童話全体における父親像と母親像 野口 芳子

シンポジウム VIII (10:00~13:00) C会場 (E310 講義室)

Linguistische Sprachphilosophie:

Auseinandersetzung mit Sprache aus Sicht der Linguistik

司会 : Shin Tanaka

1. Die Modellierung des Verhältnisses von Sprache, Denken und Wirklichkeit
in Philosophie und Linguistik Elisabeth Leiss
2. Uncartesianische Reflexion über Sprache aus japanologischer Sicht Maiko Nishiwaki
3. Potentiale einer kommunikativ orientierten Sprachphilosophie Yoshiyuki Muroi
4. Universalgrammatik als Schnittstelle zwischen der syntaktischen Strukturbildung
und der situationsgesteuerten Erkenntnisbildung Mitsunobu Yoshida

口頭発表 : 文学 4 (10:00~11:55) D会場 (E301 講義室)

司会 : 梅津 真, 副島 美由紀

1. 中世低地ドイツ語における擬人化された動物表現
— 手稿本『シヒトブーフ』を手掛かりに 小沼 和子
2. トレフリツェントの中立の天使論と誤りの告白
— 『パルチヴァール』における誠 <triuwe> の一側面 松原 文
3. トーマス・マン『選ばれし人』の語り的手法について
— 「読者に与える効果」という観点から 及川 晃希

口頭発表 : 文化・社会 (10:00~12:35) E会場 (E201 講義室)

司会 : 高橋 吉文, 瀬川 修二

1. 群集演出の観点から見たテイング劇上演 杉浦 康則
2. アルザスの啓蒙プロジェクト 今村 武
3. ユダヤ・ナショナルの自衛 — 『自衛—独立ユダヤ週刊新聞』 中村 寿
4. 高村光太郎の美術批評「緑色の太陽」におけるドイツ語使用をめぐって 野村 優子

ブース発表（11:30～13:00） F会場（E312 講義室）

データベースソフトウェアを活用したドイツ語教材の可能性と実践例

齊藤 公輔

田原 憲和

池谷 尚美

神谷 健一

閉会の挨拶（13:00～13:05） A会場（N2 講義室）

北海道大学 佐藤 俊一

研究発表会期間中，上記のプログラムに加えて，書店・出版社等による書籍展示が行われます。